

「マレーシアグッピー チャレンジ2016」へ！

マレーシアで開催された国際グッピーコンテスト「マレーシアグッピーチャレンジ2016」。審査員として参加した日本の愛好家、藤原氏によるレポートをお届けしましょう

Report / 藤原彦克
Photos (グッピー個体) / Helven Saw

受賞者の敬称略



総合優勝 スネークスキンリボン

CHIAM KUO HOW (マレーシア)
個人的にはリボン、スワロー系は苦手ですが、表現が統一された良い個体です



デルタテールソリッド レッドの部優勝

RRE アルビノフルレッド
デルタテール

LI FU LUNG (台湾)

減点対象のないグッピーで、優勝候補と思っていた個体です



メスの部優勝 ブルーグラス

VICENTE CHIN JR. (フィリピン)

ブルーグラスの特徴をよく表現していてダイナミックな個体でした

5th Anniversary

マレーシア在住のアンドリュ・リム (Andrew Lim) さんからFacebookを通じて、2016年12月にマレーシアで開催されるグッピーコンテストへの招待を受けました。最初は仕事の関係で悩みましたが、2005年のインターナショナルグッピーコンテストに参加して以来11年間、海外でのコンテストには参加しておらず、どのような状況なのかも知りたいと考え、参加するとお返事しました。

招待を受けた「マレーシアグッピーチャレンジ2016」は、ペナン島のジョージタウンで開催されます。私は12月1日に関西空港より香港経由にて出発。9時間あまりの空の旅で、定刻通りにペナンへ到着！ 空港にはアンドリュさんとマレーシアグッピークラブの方々が出迎えに来てくれました。車で40分ほど走り、ペナン市内のホテルに到着。チェックイン後、中国から参加のシェウ・シャオジュン (Xu Xiaojun) さん、プティ・シェウ (Petet Xu) さんと合流し、アンドリュさん、今回のコンテストの主催者「マレーシアグッピークラブ」代表のヘルベン・ソウ (Helven Saw) さん、そして我々日本人3名の計7名にて食事会！ たいへん盛り上がりしました。なお、マレーシアグッピークラブは2000年に創設され、2013年にはクアラルンプールにてワールドグッピーコンテスト、マレーシア大会を開催する等々数々の実績ある愛好会団体です (<http://www.myguppy.net/>)。

各国からエントリーが

翌日はエントリー手続きのためコンテスト会場へ向かいます。ここで、日本のブリーダー10名から預かった19ペアをエントリーするの

です。会場はマレーシアでも有名なペットショップ「Cheu Thean Yeang Aquatic」の催事場。約350㎡のスペースに約400本の水槽を配置した素晴らしい会場でした。

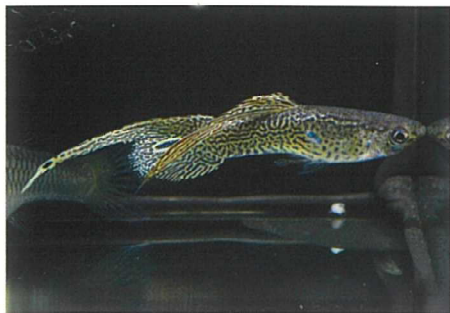
今回のコンテストはヘルベンさん並びにアンドリュさんの呼びかけにより、アジア、9カ国とイギリスの計10カ国、315組のエントリーがあり、さすが国際大会といった見ごたえのあるものでした。また、フィリピン、インドネシア、タイ、台湾、中国、マレーシア、イギリス、日本から9名の審査員が招かれており、新しい出会いの場となりました。

そして翌日の12月3日、全審査員が審査手順を確認後、クラスごとに審査を開始します。審査はワールドグッピーコンテストで採用されている国際基準に基づいて行なわれます。全般的にレベルの高い出品魚ばかりでなかなか差がつけられない状況でした。日本からはレベルの高いグッピーを持ち込みましたが、ブリーダーの手を離れてから数日、やはり活力が落ちてしまい見栄えが悪く、不利な状況になっているの是一目瞭然でした。これは今後の課題だと感じた次第です。

コンテストは大盛況

一般公開日となる12月3日、4日の両日共に会場には多くのファンが集まり大盛況！ オープニングセレモニーの後、エントリーされた315ペアのグッピーは公開されます。こうしたハイレベルな個体は、来場した方が購入できるのも面白いポイントです。

このコンテストは、日本でスタートした「ワールドグッピーコンテスト」が起爆剤となったものです。この20年間で様々な国際大会が開催されるようになったことは、当初のコンテストに関わった私としても喜ばしい限りです。ただ残念なのは、1996年以降日



ソードテールの部優勝

スネークスキントップソード

LI FU LUNG (台湾)

尾ビレ、背ビレともに、トップソードの特徴を表現していて良い個体でした



デルタテールアルビノの部優勝

RRE アルビノプラチナドイツイエロータキシード

MUNKET TE CHING (マレーシア)

尾ビレのエッジ部分にはやや難がありますが、個体的にはしっかりとしていました



デルタテールハーフブラックの部優勝

ドイツイエロータキシード

TSAI MING HUNG (台湾)

バランスのとれた個体で、特に尾ビレのポイントが高いと感じました



会場には2日間で多くのグッピーファンが訪れ、活気にあふれていました

Extended Large Tailの部優勝

RRE アルビノフルレッドクラウンテール

WU CHIA CHOU (台湾)

日本ではメラーと呼ばれているもので、細かく枝分かれしたヒレが非常に魅力的でした！一番目を惹かれた個体です



会場となったショップのオーナー、招待客、マレーシアグッピークラブ代表ならびに9名の審査委員によるテープカットが行なわれました



ベナン在住のブリーダー、イェン・チョノ・ピン (Yen Chono Pin) さん宅へ皆で訪問。280本もある水槽はヒーターいらずで、うらやましい限りです

◀今回の会場となったマレーシア最大級のペットショップ「Chew Thean Yeang Aquatic」。1963年創業の老舗で、特にアクア部門に力を入れています

本での国際大会が開催できていないことです。当初は日本勢が上位で目立っていましたが、その後日本のブリーダーが参加する機会が減り、最近では台湾を筆頭にアジアの各ブリーダーのレベルが相当上がっています。これからの日本の愛好家の課題として、グッピーに関する様々な情報を外部に発信していくなくては、個人的に考えています。例えば、各ブリーダーが長年かけて改良してきた逸品の育成や交配などのノウハウなど多々あ

るでしょう。ショーグッピー普及のためには、国際審査基準の勉強会などにも取り組んでいく必要があると思います。
Facebookを代表とするSNSの普及により、グッピー愛好家同士の情報交換が容易にできる時代になりました。今後はこのような国際コンテストを通じた交流がますます必要になってくるでしょう。いろいろな障害はありますが、こうした国際イベントへの参加ではないでしょうか。また筆者も含め第一線のブリーダーも高齢化しており、次世代への継承も重要な課題となっています。

最後に

国際大会では恒例の、全審査員と関係者との食事会へも参加しました。いつも言葉の壁には苦労しますが、今回は通訳を付けていただきました。同行してくれた日本のブリーダー、はじりさんへの質問が多く、日本への関心度は高いようです。そんな中で、「飼育水はどのようにしているのか」という質問には戸惑いました。「水質調整剤を使っている」と答えはしましたが、日本と海外では、水に対する環境が根本的に違うことに、その時は気が付きませんでした。日本では水道の蛇口をひねるだけでお腹を壊すことがない水が出てきますが、海外では水に関する環境は様々で、一般的には浄水器を使用しているようです。オーションタイムを含め有意義な時間となりました。

最後に「マレーシアグッピーチャレンジ2016」へ誘っていただき、現地で快く歓迎してくれたマレーシアグッピークラブのヘルベン会長、アンドリユーさん並びにサポートしていただいた皆様に感謝いたします。